

## 4月に大阪で 多能工育成校が開校

職人不足に対応

紅 中

4月に大阪で多能工を育成する「ハウスリフォーム・育成学院大阪校」が開校する。同校の運営は紅中(大阪府高槻市、中村晃輔社長)が行い、同社の元高槻営業所の事務所、倉庫内に研修施設(112平方メートル)を建設。労働人口減少で職人不足問題が深刻化するなか、1人の職人が複数の職種や技術を身につける多能工を育てることでビルダーや工務店が社内

効率の改善や利益の向上につなげて、特にリフォーム需要を獲得していくことが狙いだ。同校(大阪府高槻市、信本正幸学長)では便器・洗面化粧台の取り付けから、システムキッチンの組み立て、クロスの張り替え、フロアタイルの施工、後付サッシの取

社、TOTOの住設機器、サンゲツの壁紙とフロアタイルをそれぞれ使う。研修施設には、トイレ、洗面化粧台、システムキッチンをそれぞれ設置した部屋が設けられているほか、天井面にはクロス張りを練習するための木枠も取り付けられている。教官は信本学長を含む3人で、1回に受け入れる研修生は6人、月間では12人を予定している。研修費用は1人当たり54万円(講座・実施研修・修了試験・教科書付き、税込み)。現在、全国から研修生を募集している。

付け、パッキンの交換、リペア補修、網戸の張り替え、カタログの見方、基本積算の仕方、接客対応等を12日間合計80時間で学ぶ。教材として、LIXIL、パナソニック、エコソリューションズ

信本学長の話 住宅業界が厳しいと言われるなか、我々が仕入れる先や得意先とどうやって生き残っていくか考え、たどりついたのがこの学院。リフォームに対し、業界自体がまだ真剣に取り組んでいない。その改善を図り、ストック住宅への転換を助けていきたい。

